



## 3年 学年だより

令和4年(2022年)6月13日(月) No. 5

### 6月23日に修学旅行報告会があります。

5/15(日)~5/17(火)の3日間で行った沖縄への修学旅行。帰ってきてからの1か月はあっという間でしたか?それとも長く感じていますか?6/23(木)には、修学旅行の報告会を予定しています。沖縄県は、旧日本軍の組織的な戦闘が終わったとされるこの日を「慰霊の日」としています。現在、修学旅行実行委員の総務のみなさんを中心に報告会の準備中です。修学旅行での平和の学びを、1年生・2年生につなげていく気持ちで報告会に参加しましょう。



#### 【35期生修学旅行後の振り返りより】

・沖縄の豊かな緑が戦争で失われてしまっていた。現地へ行って、どれだけ戦争が悲惨だったかを学ぶことが出来た。生き抜くこともすごく心がやられてしまうことをガマを通して気づくことが出来た。平和祈念公園にある戦争で犠牲になった人が刻まれている石が増えてしまうことにならないようにしたいと思った。

・平和学習をして改めて強くなったのは、「戦争は何があってもしてはいけない」という思い。国と国の争いに一般市民が巻き込まれるのがまずおかしいし、軍人であっても人を殺すことが正当化されるなんて。人が人ではなくなる。本当にその通りだと思う。ガマに入ってわかったのは「1cm先も見えない闇の中で生活するのは、生きた心地がしない」ということ。生きているのに、死んだ人のように暮らさねばならない。しかもそれが普通だといわれる。頭がおかしくなりそうだった。こんなことがまだ世界で起きているのが信じられない。一刻も早く戦争が消えてなくなることを祈るばかりです。

・沖縄の海はとても美しくこの海が赤く染まるほど、戦争がひどかったとは想像が出来なかった。実際にガマに入ってみて、とても暗く、自分の手すら見えなかった。そんな中に何百人もの人が入り、恐怖でおびえていたと思うと。子どもたちが戦争に耐えるのは本当につらかったんだなと感じた。

・学校で平和について学ぶよりも現地の人々の話を直接聞き、自分の目で見ただ方が、戦争のことを重く感じられた。平和祈念公園では、一つの碑に地上戦で犠牲になった多くの人たちの名前があり、その碑が数えきれないほど並んでいたのも、驚いた。轟壕では暗く雨が降っていたので滑りやすく、灯りがなければ何も見えない状況で、何百人も身を潜めていたと思うと胸が苦しくなった。

・ガマに入って黙とうの時、最初は「自分たちがこうやって昔の人に手合わせても過去は変わらんし、今また戦争が起きてもおかしくないよなあ」とかしか思ってなくて、だけど、ガマに出て話をきいて、「戦争で亡くなった人が一番嫌なことは、昔の自分たちが体験したことや自分たちの事を忘れられること」って聞いてそうなんやって思ったし、この先の高校生中学生小学生関係なく平和学習を受け継いでいってほしいと思う。

・民家の人から聞いた戦争の話など、戦争体験をした人に近い世代の人から生で聞けて良かったと思った。この戦争であってはならないことは、この事実を次の世代へ語り継げず、戦争の話を知らない人を増やすことだとこの学習を通して感じました。

・ひめゆりの平和祈念資料館ではガマにいた兵隊の話があって読んでみて、一番印象に残ったのは「あまりの水欲しさに尿を飲むものもいた」です。それで自分は、戦争中は本当に水や食料がなく、一滴の水分も無駄にしたくなかったんだなと考えることが出来ました。



学年掲示板に35期生の平和宣言文を貼っています。手洗いの時にぜひ読み返してみてください。